



STOP ザ・交通事故！

-自転車利用の意識を見直そう-

1. 学校紹介

秦野総合高等学校は、秦野市南が丘にある単位制総合学科の高校です。全日制普通科である県立秦野南が丘高等学校と県立大秦野高等学校が統合し、2008年に開校しました。現在、生徒数は594人です。

総合学科ならではの授業として、「天体観測」「中国語入門」「韓国語入門」「ドイツ語入門」「フランス語入門」「幼児安全法」「社会福祉基礎」「基礎看護」「スポーツ概論」「パソコン活用」など、普通科の学校には見られない様々な内容の授業が充実しています。



【学校教育目標】

「自主自律の精神を育み、社会の有為な形成者たりうる高い知性と教養を身につけさせるとともに、豊かな人間性と健康な心と身体を持った人間を育成する。」

【ランドデザイン】

単位制総合学科だからこそ用意されている様々な選択肢を、生徒自身が夢に向かって選び、学び、実現することができ、生徒一人ひとりの可能性を大きく広げていく様子を表しています。



2. PTA 交通安全委員会の活動について

- ・交通安全指導 年3回 秦野駅前、学校周辺（教職員 PTA 約15名）
- ・交通安全活動 随時
- ・交通安全教室 年1回

【研究主題】

STOP! ザ・交通事故
— 自転車利用の意識を見直そう —

今年度 PTA 交通安全委員会では、自転車を利用する生徒が交通事故にあうリスクを減らすために活動してきました。そのためには、第一に生徒の自転車利用に対する意識の見直しが必要であると考え、この研究主題を設定しました。

通学方法



【生徒の通学状況】

県内の様々な市区町村から通学しています。秦野市・伊勢原市から通学する生徒が約7割おり、また最寄り駅である秦野駅から学校まで離れているため自転車利用の生徒は2割ほどと、さほど多くはありません。

【交通安全指導】

年3回、教職員とPTA交通安全委員会の役員が生徒の登校時に合わせて秦野駅前、学校周辺に分かれて活動しています。

スマートフォンやイヤホンをしなごらの歩行・運転、バス乗降時のマナー、信号待ちや歩道での歩き方などを指導したり、生徒の自転車のメンテナンス状況をチェックしたりしています。



【交通安全活動】

9月に開催された清峰祭（文化祭）では、「誰もが安心安全な自転車ライフを送るために、ルールやマナーについて考えていこう」というねらいをもち、生徒のみならず、来校者に向けても交通ルールやマナーの啓発運動を行いました。また、教職員と一緒に正門前の敷地内の道に事故防止を呼びかけるペイントも行いました。



【交通安全教室】

全校生徒・教職員・保護者を対象にした交通安全教室を実施しました。

高校生の交通事故の特徴や交通事故における自転車の過失責任、自転車を運転する人が守るべき基本ルールなどを正しく理解してもらうために、講演会や体験学習を行いました。

9月7日(木)、第1部として有限会社シャドウ・スタントプロダクションさんをお招きし、スタントマンによる交通事故の実演「スケアードストレイト手法による交通安全教室」を行いました。



※スケアードストレイトとは・・・

スタントマンがトラックや乗用車、自転車にはねられる「疑似交通事故」を起こし、受講者に事故の状況や原因を具体的に伝えるものです。

体育館に移動し、第2部として神奈川県秦野警察署交通安全課の方に、自転車の交通ルールや責任についてのお話をいただきました。

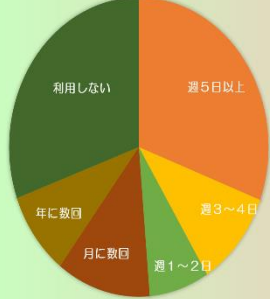
生徒1人1人が自分事として捉えることができるよう、実演と講話をあわせて行いました。



アンケート結果 生徒編 -交通安全教室実施前-

アンケート結果 -生徒編-

Q1. 自転車を利用する頻度はどれくらいですか？



Q2. 自転車保険加入が義務化されていることを知っていますか？



アンケート結果 -生徒編-

Q3. 4月から自転車用ヘルメットの着用が努力義務化されたことを知っていますか？



Q4. 自転車用ヘルメットを持っていますか？

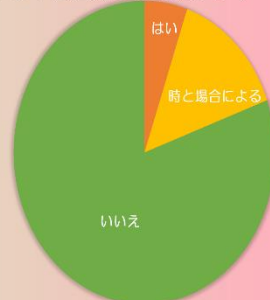


アンケート結果 -生徒編-

Q5. 自転車用ヘルメットの着用努力義務化についてどう思いますか？



Q6. 自転車に乗る際、ヘルメットを着用していますか？



アンケート集計結果 -生徒編-

・自転車に乗っている時に経験したヒヤリハットを教えてください。
 小さい子が周囲の確認をせず、急に飛び出してきたりぶつかりそうになった。
 信号機のない横断歩道で、前の車が止まってくれたので横断しようとしたら、隣の車線から凄いスピードで別の車が通りすぎ轢かれそうになった。
 坂道でブレーキがきかず、ぶつかりそうになった。
 歩行者を避けようとした際、バランスを崩し隣を走っていたトラックに当たりそうになった。

など、163件の回答

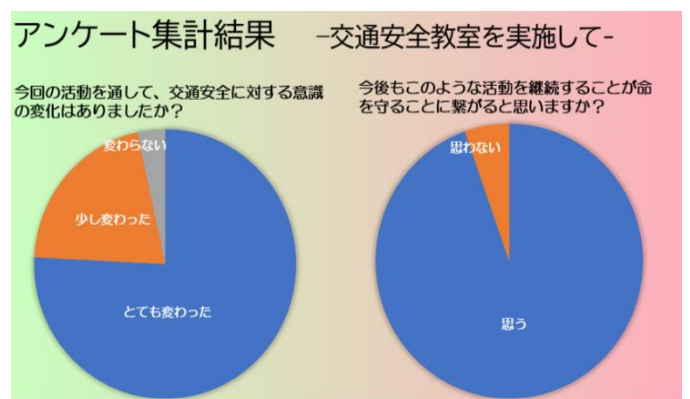
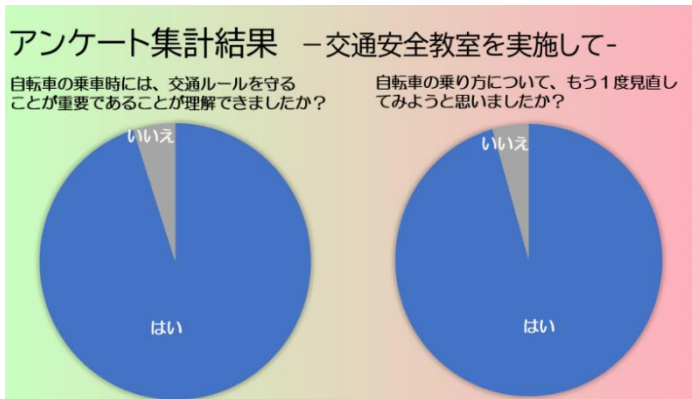
【結果から】

自転車を日常的に運転する生徒の割合は約半数ではあるものの、様々な場面で運転中に危険を危険を感じたことがあるということが分かりました。自転車用ヘルメットの着用が努力義務化されたことについての認識はありましたが、実際の所持率は低く、通学風景や交通安全指導の様子でも普段から自転車用ヘルメットを着用している生徒はほぼいませんでした。

理由として、自転車用ヘルメットの着用が規則で義務となっていないからであること、自転車用ヘルメットの必要性・有効性の周知が不十分であるということが考えられます。



アンケート結果 生徒編 -交通安全教室実施後-



アンケート結果 -スクアードストレイトを見て-

○ スクアードストレイトの感想を教えてください。

- ・事故が起こる時、どのように人や物が動くのか、どのような音がするのかなどを知ることができた。
- ・どのように事故が起こるのかを目の前で見ることで、改めて交通安全について考えさせられた。
- ・様々なパターンの事故を見て、自転車も危険な乗り物だと思った。今までヘルメットを着用していなかったが、これを機に着用しようと思った。
- ・スマホや傘さしが重大事故に繋がることが知り、改めて自転車の乗り方に気をつけなければならないと思った。

アンケート集計結果 -交通安全教室を見て-

○ 今回の交通安全教室の感想を教えてください。

- ・交通ルールをクイズ形式で楽しく学ぶことができた。
- ・スクアードストレイトを見た後の講演だったので、イメージがしやすかった。もう1度交通ルールを見直そうと思った。
- ・実際の損害賠償の例を聞いて、今まで以上に気をつけようと思った。
- ・忘れがちな自転車の正しい走行場所を再確認することができてよかった。
- ・車に関連する話が難しかった。免許を取って、運転に慣れてきても絶対に油断してはならないと思った。

交通安全教室を実施し、交通安全に対する生徒の意識が大きく変化したことが分かりました。実演と講話をあわせて行うことで、イメージがしやすく、交通ルールを見直そうという気持ちをもつ生徒が多く見られました。自転車用ヘルメットの重要性についても、再認識することができた生徒が多く見られました。

ここからは皆さんもクイズを通して自転車の利用方法について考えていきましょう。



Question 1

この標識が歩道に設置されている時
自転車は歩道を通行しても良い。



or

Question 2

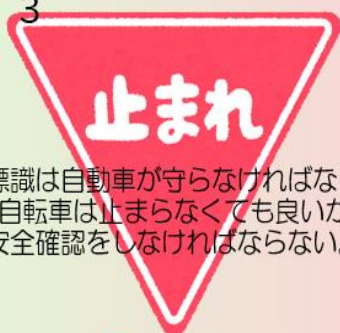
自転車で歩道を通行する際、前方に歩行者がいた時は
ベルを鳴らして自転車の接近を知らさなければならない。



or

Question 3

一時停止の標識は自動車が守らなければならないもので
自転車は止まらなくても良いが
安全確認をしなければならない。



or



みなさん、いくつ正解できましたか？

自転車は免許を持たずに誰でも乗れる便利な乗り物です。安心安全に利用するためには、各種法令に基づく交通ルールを遵守しなければなりません。保護者である私達は、監督義務者として日頃より自転車利用のルール、マナーを家庭内で確認する必要があります。1人1人が自転車利用の意識を見直し、誰もが気持ちよく通行できる道路環境を目指していきましょう。

【参考】

・神奈川県立秦野総合高等学校
<https://www.pen-kanagawa.ed.jp/hadanosogo-ih/>

・警視庁
https://www.keishicho.metro.tokyo.lg.jp/kotsu/jikoboshi/bicycle/menu/bicycle_quiz.html

・自転車は車のなかま～自転車はルールを守って安全運転～ 警察庁
<https://www.npa.go.jp/bureau/traffic/bicycle/info.html>

・交通安全クイズ 内閣府
<https://www8.cao.go.jp/koutu/kyouiku/index.html>